

2022年度（第11期）

事業計画書

自 2022年4月1日

至 2023年3月31日

東京都千代田区神田錦町3 - 20 錦町トラッドスクエア6階

公益財団法人 読売日本交響楽団

# 2022年度事業計画

2022年3月9日

公益財団法人 読売日本交響楽団

## (1) 基本方針と営業戦略

いまだ出口の見えないコロナ禍の中でも、万全の感染対策をとることで良質の音楽を提供し続けることが、私たちに課せられた使命である。引き続き収支相償の原則の下で適正な収支管理を実行するとともに、収益力の向上を図り、安定した財団運営を推進していく。

また、サロン、ハートフル、フレンドシップの各コンサートを通じて、地域および医療、学校の各現場への社会貢献を推し進める。地域貢献の一環として黒川練習所の所在する川崎市との連携も計画している。

## (2) 2022年度の展望

新型コロナウイルスの影響により、年間会員数が低減している。会員の属性やプロモーションの効率性を検証した上で投資効率を高め、チケット販売の増収につなげていく。また、主要公演においてアンケートを実施し、次年度以降の施策に生かすようにしたい。

22年度は読響創立60周年であり、5月の沖縄・那覇をはじめ普段訪れることの少ない地方都市での公演を数多く実施し、全国各地で読響ファンを広めていく。9月の北九州公演では読売新聞西部本社と、10月の福島・いわき公演では福島民友新聞社とそれぞれ連携を予定している。日本テレビ系列の地元テレビ局とも協力体制を構築し、公演を成功に導きたい。

## (3) 指揮者・プログラム

4年目を迎える常任指揮者ヴァイグレは22年度もすべての主催シリーズに登壇し、得意のドイツ物をはじめとした意欲的かつ個性的な作品に挑む。首席客演指揮者の山田和樹はR. シュトラウスのアルプス交響曲など重量級のプログラムを振る。コロナ禍以降の来日が実現していない桂冠指揮者のカンブルランや約6年半ぶりとなる上岡敏之も登場を予定している。指揮者／クリエイティブ・パートナーの鈴木優人は読響創立60周年を記念して自ら作曲した新作を世界初演する。

ショパン国際コンクール第2位入賞で注目を浴びた反田恭平や世界的名手の諏訪内晶子、「孤高の巨人」ポゴレリッチなど、実力派ソリストも続々と登場する。

#### (4) 日本テレビとの連携

読響の演奏は日本テレビ地上波とBS日テレの「読響プレミア」でその一部を放送しており、22年度は公開収録を2回、同時録音画を8回予定している。過去の放送データを「読響プレミア」ホームページで公開するとともに、インターネット有料動画配信サービス「hulu」で直近の放送回に加えて過去のアーカイブ映像を公開している。例えば年末の「第九」を過去3年分まとめて比較視聴することが可能だ。こちらも引き続きコンテンツを拡充し、継続していく。

## 2022年度 事業計画一覧

### I. 自主公演（国内） 62回

---

1. 定期演奏会	10回
2. 名曲シリーズ	10回
3. 土曜マチネーシリーズ	10回
4. 日曜マチネーシリーズ	10回
5. 川崎マチネーシリーズ	4回
6. 大阪定期演奏会	3回
7. 読響アンサンブル・シリーズ	4回
8. 特別演奏会	11回

(内訳)

首都圏特別（室内楽）	1回
地方特別	7回
第九公演	3回

### II. 依頼公演 41回

---

1. 首都圏公演	31回
2. 地方公演	8回
3. テレビ出演	2回

---

I + II 合計 103回